

# いずみさの昔と今 第349回

## 歴史館の活動「西上地蔵堂調査」

歴史館いずみさのでは調査研究および普及啓発活動の一環として、市の歴史と文化に関わる現地調査を行うことがあります。日根野西上地区の地蔵堂に関する調査もそのひとつです。西上の地蔵堂はその草創時期は明らかではありませんが、「日根荘総合調査報告書」（大阪府埋蔵文化財協会1994）によれば、南北朝時代に河内から当地に移った佛願氏が自身の念持仏を地蔵堂に祀ったことに始まるとされています。現在でも地蔵講の人々により管理され、毎月17日、20日、24日にお堂が開かれ念仏があげられています。また、葬儀の際は十三仏屏風（大正14〔1925〕年）を持ち出し、「西国三十三所御詠歌」で供養しているそうです。

お堂の管理を行う地蔵講の草創期は地蔵堂と共に不明です。しかし、講関係で現在把握できている最も古い文献、嘉永4（1851）年の「地蔵帳」から、少なくとも弘化4（1847）年には講員から積立金を集め、それを講員に貸したことや、地蔵堂に係すると思われる費用としていたことが分かります。また「講中」という言葉が出てくることから、

江戸時代後期には地蔵堂に関係した地域コミュニティが成立していたと考えられます。

更に地蔵堂（講）成立時期は堂内に安置されている仏像からも推測できます。地蔵堂の本尊は石造地蔵菩薩立像で、普段は厨子の中に安置されています。像全体を一石から掘り出し、左手に宝珠、右手に錫杖を執り蓮台の上に立っています。また他にも花祭り（灌仏会）の本尊となる銅造釈迦誕生仏、本来は十一面であったと考えられる厨子入観音菩薩立像、牀座（しようざ）の上に座り右手に五鈷杵を握り、左手で念珠を持つていた弘法大師坐像が現存しています。これらの像はいずれも江戸時代にさかのぼると考えられ、この頃には確実に地蔵堂と堂を運営する共同体（講）が存在していたことが伺えます。

さて、ここまで地蔵講についてみてきましたが、西上には上記以外にもさまざまな講組織が存在していました。「日根荘総合調査報告書」によるとかつては10の講があったようですが、調査時には地蔵堂念仏講（現地蔵講）と庚申講のみが続いていることが載せられています。そのことから西上の地蔵講は昔からの地域社会の在り方と伝

統、文化を現在に残す貴重な地域コミュニティと言えるのではないのでしょうか。今回は西上地蔵堂を紹介しましたが、歴史館では今後も地域に関わる歴史と文化の調査や普及活動に力を入れていきたいと思えます。



◀西上地蔵堂

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの  
☎469-7140 Fax469-7141  
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館）  
開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
入館料 無料

## 泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

### ⑦商店街（4）



◀昭和33年、泉佐野市が市制施行10周年で商店街が協賛大売出しをした時の写真で、先月の写真の反対側を撮ったもの。10周年記念のパレードの見物客と思われる。



◀現在の写真。駅前の道路は広くなり、店舗も少なくなっているが、基本的な町並みは若干残っている。写真奥の銀行のビルは、現在と様変わりしている。



泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ（<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>）」でも公開中！